

まちづくりビジョン策定委員会（第1回）会議録

- 日 時：平成26年1月10日（金）午後3時00分～午後5時10分
- 場 所：みなかみ町役場 本庁舎6階 第2会議室
- 出席者：
 - ①まちづくりビジョン策定委員会（11／13名）
小林 洋、河合 生博、小野 章一、津久井 功、持谷 美奈子、中島 エリ、
渡辺 一彦、金子 崇範、高橋 直也、本多 圭仁、鬼頭 春二
 - ②アドバイザー（1／1名）
平松 庚三
 - ③事務局（3／3名）
まちづくり交流課長 宮崎 育雄、商工振興GL 小池 俊弘、主査 大川 志向
- 配布資料
 - ①会議資料
 - 資料1 まちづくりビジョン策定委員会設置条例（表）、委員名簿（裏）
 - 資料2 まちづくりビジョン策定方針（案）
 - 資料3 まちづくりビジョン策定スケジュール（案）
 - ②参考資料
 - みなかみ・水「環境力」宣言
 - みなかみ町スポーツ・健康まちづくり宣言 ～笑顔っていいよね～
 - 谷川連峰・水と森林防人宣言
 - 第1次みなかみ町総合計画後期基本計画
 - 水と森を育むまちづくり構想 水と森を育むエコタウンみなかみ
～ふるさとの資源を活かした地域振興構想～
 - 平成25年度 教育行政要覧
 - みなかみ町スポーツ推進計画
- 会議内容

1 開会

2 委員の委嘱

- 岸町長より各委員に委嘱状が交付される。

3 町長あいさつ

町長 まちづくりビジョン策定委員会は条例に基づく委員会であり、町長の諮問に応じることとなっているが、諮問の段階で具体的な方向付けや議論の範囲について特定する必要はないと思っている。委員会には、まちをどのように作っていったらよいか幅広いことをご検討いただきたい。いずれ答申をいただくことになるが、いつまでにどう

してくれということは意識していない。皆さんの議論にお任せし、いろいろとご提言いただきたい。提言のなかには、実行可能なことや不可能なことがでてくるだろうが、自由にご議論いただきたい。

今回の委員会は、非常に特異的というか強力なメンバーが揃っている。みなさんには積極的かつ責任を持って取り組んでいただきたい。そのためにも、委員としての名刺を作成してお渡ししたいと思っている。戸惑う部分もあると思うが、議論を進める中で町のためになることをご提言いただき、行政としてはそれを一つ一つ実現していく。平松さんにはアドバイザーということで、ご指導いただければと思っている。よろしくをお願いします。

4 委員自己紹介、事務局紹介

- 各委員、事務局より自己紹介が行われる。

5 講話

演題「これからの社会と求められるまちづくり」

小僧 com 株式会社 代表取締役 平松庚三

- ・まちづくりは経営である。経営とは資源を動かすこと。
- ・「みなかみ町」という商品の価値をいかにして高めるか。
- ・新しい視点や考え方をこの場に持ってこられるかが成功の鍵となる。
- ・スピード感を持って、目に見える（数値化できる）成果を示したい。

6 議事

(1) 委員長、副委員長選出

- まちづくりビジョン策定委員会設置条例第5条により、次のとおり役員が互選される。

委員長：2号委員 鈴木 和雄

副委員長：4号委員 鬼頭 春二

- 委員長不在のため、まちづくりビジョン策定委員会設置条例第6条により、副委員長が議長となる。

<町長退室>

(2) まちづくりビジョンの策定について

鬼頭 事務局に説明願う。

事務局 （資料2と資料3により、まちづくりビジョンの策定について説明する。）

- ・ビジョンでは、産業振興の観点からまちづくりを総合的に推進するための方向性やプロジェクトを示したいこと。
- ・策定の背景として急速な人口減少や少子高齢化があり、若者を定着させるためには、本町の特性を活かしながら各分野が連携した戦略を推進する必要があること。

- ・策定体制、関連する計画や施策等、ビジョンの骨子、スケジュール について
- ・インターネットを活用して、意見の交換や情報の共有を図りたいこと。

平松 スケジュール（案）を見させてもらったが、イメージしていたものと全く違っていた。1か月に1回の委員会で、1年かけてよいのか？インターネットを活用するということであるが、フェイス to フェイスにかなうものはない。インターネットでは参加する人が限られてくる。みなさんが忙しいのは重々承知しているが、大丈夫か？

津久井 月に1回では内容を忘れてしまうし、何も討論できないで終わってしまう。会ったという事実が残るだけで、何も進まないと思う。

渡辺 スピード感はなくなる。活発な議論にはならないのではないか。

平松 当然、みなさん本業があるわけだが、月に1回ではディスカッションができない。このようにルールが敷かれていて、事務局に任せておけば、何とかかっこいいビジョンが作れるかもしれないと思い始めている。

河合 町の現状と課題の整理は事務局でやらざるを得ないという部分が多いと思う。まずは現状をみなさんに見ていただかないと整理がつかないのではないか。この間はなかなか議論もディスカッションもできないと思うので、基本的な部分だけの期間は必要だと思う。そのあとのスピードは、みなさんの都合がつけばどのようにでもできると思う。現状の把握まではどのくらいの期間がかかるか？

事務局 スケジュール（案）は案であり、短期間でやれということであれば我々も当然そのように動く。現状の把握はすでに始めているので、今月末までにはできる。

平松 折角これだけの町の才能が集まっているのに、役所の敷いたルールの上でディスカッションをするのではもったいない。現状の認識や精査、問題点の把握やウェイト付けと、一緒にやっていかなければならないが、10回ほどのディスカッションでできるか自分の実力からしても心配である。みなさんが忙しければ僕だけ来て夜中まで議論することはできるが、それではおもしろくない。

河合 資料が作成でき次第配っていただいて会議に臨むということであれば、一人一人が考えられると思う。我々は何とか認識しているが、3号委員のみなさんは認識できていない部分が多いのではないか。会議の場で資料を配られて考える間もなしでは、事務局のペースでやっていかなざるを得ない。資料を作成したらまず配布をしていただいて考える時間をつくり、自分なりの考え方をもって会議に臨んでいただきたい。

鬼頭 最低限資料は事前に配っておいて、会議をした方が効率的である。

事務局 全くその通りで、そのためにも、作成した資料を随時インターネット上にアップし、スピーディーに情報が届くようにしたい。

平松 資料として、成果測定のようなもの、ここが良かった悪かったなどが必要だと思う。会社や店でもやっていること。例えば、群馬DCがあったが、キャンペーンでどれくらいのトラフィックが上がったのか、一人あたりのスペンディングがどのくらいだった

たのかなど、数値でできるともっとよかったと思う。

平松 月に1回でよいのですか？

津久井 もう少しスピードを上げて短期間でやらないと。スポーツ関係だと2020年には東京オリンピックも控えているので、ビジョンの骨格を早く策定しないと他の地域に負けてしまう。

鬼頭 事務局はみなさんの意見でペースを合わせられる。ただし、早めるということになると、みなさんも忙しくなる。

平松 みなさん本業があるから出られない時もある。出席できなくても意見を先に送っておくこともできる。第1はスピード。毎週は無理でも月に1回は無いと思う。いくらインターネットで情報の共有を図ったとしても。

渡辺 2週間に1回程度にして、それではスピード感がないとか、出る委員さんが少ないようであれば、その時に議論すればよいのではないかと。平松さんのおっしゃるとおり、出られないときは事前に意見するのは一つの手段だと思う。

それと、主な産業が観光と農業であるといろいろな方がおっしゃるが、委員として水上地区の宿泊業の方が含まれていないことが気になる。宿泊業は滞在時間を延ばすという観点でも重要だし、他の観光協会や商工会の中でも重要な役割を担っている方が多いなど影響力も大きいので、そういう方が複数いてもよいのではないかと。

平松 この中に宿泊業関係者は2人いるのですよね？

中島 私の土合山の家は谷川岳に登られる方を対象としたものなので、特殊であり旅館業とは違う。旅館の経営としたら私の意見は違ってくると思う。山に登る方がメインであるので滞在時間も変わってくる。

渡辺 お客さんのピークに大きな波はないと思うが、私は飲食業なので課題とか目標を認識しきれていない。課題とかビジョンを作る上では、最も長い時間の宿泊業の方の意見をもう少し入れた方がよいのではないかと。

平松 大変重要ですね。観光客は日帰り客と宿泊客の2種類。過去5年間の宿泊客数や一人あたりのスペンディングの推移などの資料は出せるのか？

事務局 出せます。

平松 そういうデータを基に、どうなのか、なぜなのか、どこかにとられているのか、マーケットはどこから来ているのかなどが出てくる。みなかみの一番の強みはマーケットである東京から近いこと。マーケットの近さでのライバルである鎌倉・箱根・河口湖などと、サービスや商品を差別化できるのかというディスカッションにつながっていく。ホテルでは、全部やっていることでしょ？

持谷 毎月、年間で全部まとめている。今の意見で思うのですが、町村合併に伴って猿ヶ京、上牧、水上という3つの温泉地が一緒になってみなかみ温泉郷18湯という言い

方がされているが、私たちのなかで戸惑いがある。猿ヶ京は猿ヶ京温泉として売ってきたわけであるが、合併によってみなかみ温泉という名前になったがために、メインが水上温泉になった。18の種類温泉があるが、みなかみ温泉郷という出かけていくときも宣伝するときも書かれているのは「みなかみ」であって、でも谷川温泉や宝川温泉もあり、その辺に観光業の難しさを感じている。国内ではまだわかっていただけのこともあるが、台湾に行ったときに、みなかみ温泉は水上温泉でしかない。

平松 それはブランディングの問題だからすごくおもしろい例。トヨタにはクラウンやカローラというサブブランドがあってマーケティングをしているが、トヨタという車があるということですね。

持谷 そう感じているのは旅館やホテルの亭主であるが、個々には言わない。

平松 1つの例としてはすごく良い問題提起ですよ。

小野 みなさんが集まった時に、町の現状を把握することが第1歩。1～2月は比較的出席しやすい時期であると思うので、現状を把握する時間をある程度とって、その後、方向付けの段階になると思うが、そういったところで時間をどのように割いていけるかを議論してはどうか。

鬼頭 もう少しペースを速めるということで、目標としては、月に2回のペースで会議をしていくということでしょうか。

本多 忙しい時期と暇な時期の差があるが、果樹は足が速いのもあるので、1日とられると厳しい面もあって、代理というわけにもいかないから、あまり回数が多くなると出られないことが多くなる。

平松 曜日や時間帯にもよるよね。朝がいいのか夜が良いのか。

本多 私は夜がよいが、旅館や飲食店は夜が忙しいと思うので。あまりペースが速いと厳しい。

平松 1か月に1回はどうか？

本多 遅いとは思いますが、受けるときに月に1回くらいと聞いていた。

平松 僕は週に1回来なくちゃならないと思っていた。ディスカッションできる時に思いつきしちゃうのがよいが、忙しい時は仕方がない。その補助としてインターネットを使えばよい。

鬼頭 これだけの大人数ですから、仕方がない。出席できないときはいろいろな手法で意見を伝えていただくということで。

持谷 受けるときに、みなかみ町のために頑張るという意識があるが、時間を決めていただくと助かる。回数を多くしても密度の高い会議にいただければ出席しやすい。盛り上がって延長するのは仕方がないが。

事務局 資料1を見ていただきたい。条例第6条にあるように、半数以上の出席があれば成立するとある。また、必要に応じて部会をおくことができる。宿泊業が少ないということであるが、必要があれば委員以外のものに出席を求め意見を聞くこともできる。その辺をうまく活用できればと思う。

渡辺 宿泊業と言ったのは、飲食店では顧客データを大雑把に捉えている部分もあり、より正確な宿泊業のデータがすごく活きると思ったから。

鬼頭 会議の時間は2時間でどうか？

平松 2時間は必要でしょうね。

津久井 議題にもよると思う。もっと続けなければならないときもある。

平松 基本は決めましょう。それから、場所をどうするか。ここだとWiFiも飛んでないし、ホワイトボードもない。

鬼頭 会議の時間と場所という話であるが、おおむね2時間ということで、議題によっては延長もあるということではどうか。場所は上毛高原駅前の観光センターでよいか。

- 委員会の開催は2週間に1回程度、1回の会議時間は2時間程度とする。ただし、開催時期や議題等によって、開催頻度や会議時間が変動することもある。

平松 ゴールは冊子を作ることではない。ゴールはその後をどういう風にやっていくのかであって、ビジョンを作ったものを今度どういう風にKPI（重要業績評価指標）をいれてどこで成果測定をしていくのか。策定したが、観光客も増えなかった、一人あたりの単価も増えなかったでは何にもならない。商売のこととすぐ言われるが、実際に数値があがってなんぼのもんだと思う。それぞれ、みなさんのところが儲かるようになるということは、税金が増えるということであるからそれがゴール。そのところは共通認識としてやっていきましょう。

事務局にお願いしたいのだが、こういうグラフを作るときは絶対数でなく、必ずパーセンテージを出していただきたい。パーセンテージで見ないとディスカッションでは正しいものが見えてこない。

次回は、みなさんがそれぞれおっしゃった、みなかみ温泉のような現状の認識と問題点の把握。どういう風にブランディングしていくのかというのはすごく面白いと思う。

河合 同じようなことで、みなかみ町の天気予報でお客さんが左右されるということもある。大雪と出るとたくみの里に来るお客さんは雪と考える。全く雪がありませんといってもお客さんは信用しない。雪を相手にしているところはもちろんそれでよいが、雪があると来ないところは来なくなる。

平松 グッドポイント。まさにそうですね。

持谷 宿泊業は本当に大変で、雪と出ると全部キャンセルです。全てネットの世界なので

電話で問い合わせてくる方はいない。

小林 車を運転する人も敬遠してしまって、スキー場にも来なくなる。

平松 今日はそれで2つの問題点が出たからすごいですよね。

中島 ここは晴れているが、土合は今日も雪である。お客様の中にはわざわざ雪を見に来る方もいるので、せっかく雪があるなら利用してやろうという逆転の発想で、8メートルくらいの大きいかまくらを作るようにした。中には、雪を見たかったのに雪が全くなかったとがっかりされる方もおられる。どちらも一長一短あるが、今の話を伺うと、切実な問題だと思う。

平松 そのこのところは割と簡単だと思う。町内にあるライブカメラを使って、現在の状況をピンポイントで発信することで解決できると思う。でも、すごいポイントですよ。

河合 みなかみというのは、日本ではひらがなのみなかみ町の漢字の水上であるが、台湾に行くときみなかみも水上になってしまうので、認識が全くされない。先ほどの話は非常にわかる。

平松 なるほど。それもありますよね。先ほどオリンピックの話があったが、1～2年前にやったのではだめ。多くの客が来るのであれば、その2%をとろうとか1.5%をとろうとか、楽しいディスカッションができる。ターゲットをどこにするかによって、水上もあるしminakamiもある。

僕もこれまで全体をみなかみ温泉と言うことは知らなかった。答申として町名を変えるというのがあってもおもしろい。月夜野と聞いたら絶対に忘れない。メモリーが全然違う。

平松 みなかみ温泉と呼ぶのは水上温泉だけで、全体をどう呼ぶのかという議論があってもよい。でも、それをするにはマーケットでのブランドの認知率がどのくらいか。みなかみといったときにマーケットは何を思い出すのかという調査だって必要だと思う。これまでに市場調査のようなものをやったことがありますか？

事務局 観光協会ですら似たことをやっている。

渡辺 みなかみから何を連想するかということと、認知度や興味についての調査結果が観光協会にある。認知度としては温泉とスキーが上位であるが、興味ではアウトドアスポーツが上位になる。

平松 それをぜひほしいですね。今回は、観光協会は来ていないのか？識見を有する者の中に観光協会が入っていないのはなぜか？もっとも大切ですよ。観光関係者は含まれているが、観光というのをもう少し大きなところから見ているのは観光協会なのではないか。

事務局 資料は用意できるので、委員さんの中に必ずしも必要ではないのではないかと。必要があれば、事務局で要請してここに来てもらって意見をうかがうことは可能。

平松 企業を誘致しようとか書くのは簡単であるが、実際に実行するのはそうはいかない。一番は観光であるが、現状のビジネスを強化する方が、全く新しいものを作るよりも経営効率はよいはず。ですから、現状を認識して問題点が整理できたところで、観光協会として何が一番問題だと思っているのか、我々がディスカスした問題点が一致するのかどうなのかというのもぜひやりたいですね。

平松 それともう1つ。アライアンス（提携）をどこと組むのか、組むのは何なのかというのを、もうちょっとストラテジック（戦略的）にやって、そこから当然お客をMICEですよね。来てもらう。うちは世田谷なので、川場村に毎年行っていた。チェコスロバキアと友好協定を組んでもチェコからは誰も来ないと思う。

（3）次回委員会の開催について

- 次回の委員会について、次のとおり日時と場所が決まる。

日時：1月31日（金）午後3～5時まで

場所：観光センター2階 会議室

（4）その他

- 会議内容について、ホームページ及び広報等を用いて積極的に公表することが確認される。
- 委員報酬、電子会議室への登録について確認される。

5 閉会